

TECH
LEADS A
POSSIBLE



エコアクション21
認証番号0006347

2023年度版 環境経営レポート

自 2022年10月1日
至 2023年9月30日
作成日 2023年11月14日



HOKURYO®

ご挨拶

当社は創業以来、より豊かな社会づくりの一翼を担いたいとする企業理念のもとに、製品の品質化をはじめ、より優れた技術力、未来を先駆ける創造力の研鑽に取り組んできました。そして、永年に亘り培った独自の技術とあらゆる可能性を迫及する創造力を駆使し、ダイナミックに行動して参りました。

一方で、日々、世界の環境・経済が大きく速く変化する時代となり、益々、環境保護の重要性が増しています。世の中の持続可能な発展のためSDGs 協調し、事業活動を進めて参ります。

これからも、常に時流に先んじた新製品の開発を行い企業品質の向上につとめ、未来社会の調和ある繁栄に貢献できる企業であり続けたいと考えております。



株式会社 北菱
代表取締役 谷口 直樹

目次

I. 環境経営方針	P-2
II. 事業の概要	P-3~4
III. 環境負荷の実績と環境経営目標	P-5~6
IV. 2023年度の環境活動と次年度(2024年)の取り組み	P-7~13
V. 環境保全活動の取組結果の評価	P-14~17
VI. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P-17~18

I. 環境経営方針

私たちは、ますます深刻化する気候変動の影響、大型台風、ゲリラ豪雨や線状降水帯などへの対応が人類共通の重要課題であり、環境保護の重要性が増している。また、世の中の持続可能な発展のため SDGs協調、カーボンニュートラルへの貢献において当社の事業活動、建設・産業機械部品の製造、航空エンジン部品の加工、各種産業車両の整備及び車検、環境機械・下水道メンテナンスロボットの設計・開発、製造及び修理における環境負荷の低減、環境改善への貢献を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に環境保全活動に取り組めます。

〈環境保全への行動指針〉

1. 環境経営マネジメントを継続的に改善し、環境負荷軽減に努めます。
2. 環境保全に関する法規制や協定を遵守します。
3. 顧客・地域社会と取り交わした決め事を遵守します。
4. 当社の企業活動で、次の項目を重点活動項目として取り上げ、環境パフォーマンスを改善します。
 - ① CO2 排出量の削減
(エネルギー使用量の低減)
 - ② 環境配慮型製品・サービスの開発・販売・提供及びそれら環境性能の改善
 - ③ 水使用量の削減
 - ④ 化学物質使用量の削減
 - ⑤ 廃棄物排出量の削減

これらについて環境経営目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

5. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。

2010年10月1日制定

2022年10月1日改定

株式会社 北菱

代表取締役 谷口 直樹

Ⅱ. 事業の概要

1. 会社概要

会社名	株式会社 北菱
代表者	代表取締役社長 谷口 直樹
所在地	〒923-0034 石川県小松市長田町イ18番地
設立	昭和25年10月
資本金	4,104万円
事業内容	建設機械・産業機械用金属部品及び航空エンジン部品の加工製造、 各種産業車両の整備・修理及び車検、環境機械・下水道メンテナンス ロボットの設計・開発・製造・販売及び修理
事業規模	従業員 105名



沿革

(令和5年10月現在)

昭和25年10月(1950)	自動車販売修理業として会社設立
昭和37年11月(1967)	建設機械を北陸三県で販売・アフターサービス事業開始
昭和48年1月(1973)	製造部門を新設。建設機械の重要保安部品の生産を開始
昭和59年4月(1984)	下水道維持管理のオリジナルロボットを商品化し、全国販売を開始
昭和62年7月(1987)	製造部・特装部・産機部の3部門を柱に技術集団を形成
平成13年11月(2001)	品質マネジメントシステム ISO9002(現 ISO9001)の認証を取得
平成22年12月(2010)	エコアクション21の認証を取得
平成27年7月(2015)	JIS Q 9100(航空機部品製造品質マネジメントシステム)の認証を取得
平成28年5月(2016)~ 平成30年10月(2018)	IMS社下水道穿孔機、rausch社下水道調査カメラ機器(共にドイツ製)を 日本総代理店として取扱い開始
平成31年1月(2019)	航空エンジン部品の一貫製造を開始
令和元年10月(2019)	当社製環境機械「スーパーミニモグ穿孔機」がグッドデザイン賞受賞
令和元年11月(2019)	「スーパーミニモグ穿孔機」が、いしかわエコデザイン賞大賞を受賞
令和2年9月(2020)	JICAの中小企業・SDGsビジネス支援事業において、マレーシア国における 下水道管路維持管理普及・実証・ビジネス化事業に北菱が採択
令和3年9月(2021)	「スーパーミニモグ穿孔機」が、プレミアム石川ブランド製品に認定
令和4年9月(2022)	コロナ禍で中断していたマレーシア国におけるJICAの中小企業・SDGsビ ジネス支援事業再開。2023年現地組織との工事契約と工事実施。評価中。

2. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者	代表取締役社長	谷口 直樹
環境管理責任者	総務部 部長	越田 浩彰
環境管理担当者	プロジェクト事務局	岸野 外茂彦
連絡先	TEL:0761-21-3310 FAX:0761-21-3369 https://www.kabu-hokuryo.com/contact/	

3. 対象範囲

- ・ 全組織：株式会社 北菱 本社
- ・ 全活動：建設機械・産業機械用金属部品及び航空エンジン部品の加工製造、各種産業車両の整備・修理及び車検、環境機械・下水道メンテナンスロボットの設計・開発・製造・販売及び修理

4. 組織



責任者の役割

(1) 代表責任者

- (ア) 環境経営方針の策定
- (イ) 環境経営に関する責任と権限
- (ウ) エコアクションシステムの評価及び見直し
- (エ) 環境管理責任者の任命
- (オ) 環境経営レポートの承認

(2) 環境管理責任者

- (ア) エコアクション21活動責任者
- (イ) 環境経営レポートの作成、公開

- (ウ) 環境経営目標、環境経営計画の作成と進捗管理
- (エ) 環境関連法律の遵守と評価

(3) 環境管理委員会(事務局)

- (ア) 環境管理責任者の補佐
- (イ) 進捗管理のデータ収集、整理
- (ウ) 各部門推進委員との連携・活動計画推進

Ⅲ、環境負荷の実績と環境目標

当社における過去3カ年の環境負荷実績を把握し2023年度から2025年度までの中期目標を定め活動を開始した。

1. 環境負荷の状況(2023年度実績:2022年10月~2023年9月の期間を示す)

CO2 排出量の電力由来部分は、北陸電力のCO2 排出係数:0.497kg-CO₂ / kWh(令和元年)を使用し、過去の実績についても同排出係数にて算出した。また、生産高の定義は、「売上げ高 - 外部委託費」とした。赤字は目標未達成。

		2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 目標値	2023年度 実績
総CO2 排出量	kg-CO ₂	696,420	720,027	-	778,232
	kg-CO ₂ /生産高百万円	299.9	295.2	292.2	312.2
水使用量	容量m ³	3,230	3,116	-	4,496
	人員当たり m ³ /人	28.3	28.8	28.5	42.8
化学物質 使用量	重量t	13.96	16.09	-	15.35
	生産高当たり kg/百万円	6.01	6.60	6.53	6.16
廃棄物排出量 (含金属屑)	重量t	130.6	85.8	-	73.0
	生産高当たり kg/百万円	56.3	35.2	34.8	29.3

2. 中期環境経営目標

環境経営目標		中期環境経営目標
1-1	生産高当たりのCO ₂ 排出量を削減します。	生産高当たりCO ₂ 排出量 前年度実績に対して 毎年1%減
1-2	作業のムダトリ及び生産性の向上によりエネルギー使用量を削減します。	生産高当たりエネルギー使用量 前年度実績に対して 毎年1%減
2	水資源の節水に努めます。	水使用量 前年度実績に対して 毎年1%減
3	作業のムダトリ及び生産性の向上により化学物質排出量を削減します。	生産高当たり化学物質排出量 前年度実績に対して 同等とする

4	使用原材料の省資源及び廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)を推進します。	生産高当たりの廃棄物排出量 前年度実績に対して 同等とする 廃棄物の再資源化率 分析後検討
---	---------------------------------------	---

年度別の改善の着眼点

大項目	2023年度目標 及び着眼点	実施	2024年度目標 及び着眼点	計画	2025年度目標 及び着眼点	計画
1-1. 生産高当たりのCO2排出量を削減します。	生産高当たり CO2 排出量を前年度実績比 99% ・再生可能エネルギー利用 ・電力デマンドアラームによる空調制限の実施	○ ○ ○	生産高当たり CO2 排出量を前年度実績比 98% ・再生可能エネルギー設備の環境意識向上 ・省エネ空調の段階的切替え検討	○ ○	生産高当たり CO2 排出量を前年度実績比 97% ・省エネ設備更新検討 ・省エネ空調更新検討 ・省エネ車への段階的切替え検討	○ ○ ○
1-2. 作業のムダトリ及び生産性の向上によりエネルギー使用量を削減します。	生産高当たりエネルギー使用量を前年度実績比 99% ・5S活動の推進 ・工程監査など造り込みで不適合作らない取組み ・負荷計画による残業管理の徹底	○ ○ ○	生産高当たりエネルギー使用量を前年度実績比 98% ・5S活動の推進 ・工程造り込みで不適合を作らない取組み ・負荷計画精度向上による残業の削減	○ ○ ○	生産高当たりエネルギー使用量を前年度実績比 97% ・5S活動の推進 ・工程造り込みで不適合を作らない取組み ・多能工化教育による最適人員配置で残業の削減	○ ○ ○
2. 水資源の節水に努めます。	水使用量を前年度実績比 99% ・上水の使い方の改善 ・節水・こまめに止める等	○ ○	水使用量を前年度実績比 98% ・上水の節水方法の検討 ・漏水箇所の補修 ・雨水利用の検討	○ ○ ○	水使用量を前年度実績比 97% ・雨水の利用拡大 ・漏水箇所の補修	○ ○
3. 作業のムダトリ及び生産性の向上により化学物質使用量を削減します。	生産高当たり化学物質排出量を前年度実績と同等 ・工程の見直しにより、塗料使用量の削減(塗装膜厚管理) ・環境対応の塗材検討(環境対応シナーなど)	○	生産高当たり化学物質排出量を前年度実績と同等 ・工程の標準化により、塗料使用量の削減 ・環境対応の塗材提案(環境対応シナーなど)	○ ○	生産高当たり化学物質排出量を前年度実績と同様 ・工程の見直しにより、塗料使用量の削減 ・環境対応の塗材導入(環境塗料・リサイクルシナー検討)	○ ○
4. 使用原材料の省資源及び廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)を推進します。	生産高当たり廃棄物最終処分量を前年度実績と同等 ・省資源改善案の立案 ・手直し不良の低減 ・残材の再利用 ・再資源化戦略の設定 ・グループウェア(GW)の活用	○ ○ ○ ○ ○	生産高当たり廃棄物最終処分量を前年度実績と同等 ・前年度改善案の実施 ・手直し不良の低減 ・品質改善仕損の低減 ・再資源化率の目標設定 ・DX推進への普及	○ ○ ○ ○ ○	生産高当たり廃棄物最終処分量を前年度実績と同等 ・前年度改善案の実施 ・手直し不良の低減 ・品質改善仕損の低減 ・再資源化品目の拡大 ・DX推進への普及	○ ○ ○ ○ ○

IV. 2023年度の環境活動と次年度(2024年度)の取り組み

(斜体文字:次年度の取組み)

大項目	具体的な取り組み内容	担当部門		
		製造事業部	車両事業部	事務部門
1-1 購入電力のCO2 排出量を削減する	1. 室内不在時、昼休み時の消灯励行 2. 待機電力の削減。こまめな ON/OFF 3. 冷暖房の適温設定、ケルウォームズ 励行 4. 作業エリアの工程監査による「ムリ/ムラ/ムダ」排除で作業の効率化 5. 工場屋根有効利用(太陽光発電)で再生可能エネルギーの地産地消 6. <i>省エネ型空調・設備の導入、検討</i> 7. 電力デマンド監視により、契約電力超過予測時に各部門へ節電要請	●	●	●
1-2 灯油・LPGのCO2 排出量を削減する	1. 灯油型ヒーターを電力型に更新 2. 冬季無人ストーブのこまめな停止 3. ガス給湯から電気温水器に転換	●	●	●
1-3 燃料のCO2 排出 量を削減する	1. エコドライブの実施 ① 「急」のつかない運転 ② 無駄なアイドリングを停止 2. 支給材の直送化によりより自社トラック便数減	●	●	●
2 水使用量を削減 する	1. 手洗い等に無駄のない洗い方励行 2. 配管などの水漏れ点検・補修 3. 切削加工のドライ加工化	●	●	●
3 化学物質使用量 を削減する	1. 塗料、シンナー環境対応品へ切替 2. 特定化学物質非含有塗料の検討 3. 塗装工程標準化と膜厚管理の徹底	●	●	
4 廃棄物を再利用 する	1. コピー用紙の裏面の再利用 2. 緩衝材にダンボール等を再利用 3. リターナブル可能な搬送容器検討	●	●	●
5 環境配慮型製品・ サービスの環境 性能の改善	1. 環境配慮型製品・サービスの開発・販売・提供 2. <i>高効率製品の委託製造と工程改善</i> 3. <i>車両の点検整備で環境性能を回復</i>	●	●	

当社の ECO 活動

■ 活動 1

- ・ゴミの分別
- ・重量計測



(解説文)

各工場及び事務所ごとに発生するゴミを分別し、それぞれの発生量を計測・記録することで状況を把握しゴミ発生抑制への改善へつなげます。

■ 活動 2

- ・環境配慮型の
自社製品販売



「スーパーミニモグ穿孔機」



「フレキシブルカッター」



(解説文)

今後ますます老朽化が進む国内外の下水道環境において、弊社ブランドの遠隔操作ロボットや機器を利用することにより、管の内面から補修する管更生工事が効率よく進み、下水道環境の改善、持続可能な環境保全への貢献が図れます。

なお、この製品により下水道環境を整え維持管理することで、気候変動に伴う豪雨時の冠水予防・緩和にもつながり、不測の感染症の拡大防止にも貢献できます。

■ 活動 3

- ・ EV 車
ハイブリッド車
の運用



(解説文)

社用車1台は EV で排ガス(CO2)が無く、走行中のゼロ・エミッションに寄与。その他、ガソリン給油・エンジンオイル交換が不要となり、環境負荷の大幅な削減が期待されます。
※更新前の HV 車比、走行距離当たりのランニングコストを1/3に低減。

また、走行距離の多い営業車はハイブリッドカーとし、省燃費効果による化石燃料の使用低減が期待できます。

■ 活動 4

- ・電力デマンド
監視装置の運用



(解説文)

電力デマンド監視装置を設置。契約電力超過予測時のアラームにより各部署への一斉呼び掛け～節電対応(冷暖房機器一時停止)までの行動をルール化、運用中。

新規に導入する設備などの電力負荷でアラーム要因が多い場合、適宜契約電力を見直し適正化を図ります。

■ 活動 5
・構内照明の
LED化



(解説文)

2017年より工場内水銀灯、メタルハライド照明、投光器、事務所の蛍光灯などをLED化。全照明の想定電力削減率約70%の省エネ効果に加え、エリア毎に最適化した照度計算により、作業空間も明るくなり作業中の視認性も向上しました。

■ 活動 6
・再生可能
エネルギーの
自家発電



(解説文)

再生可能エネルギー利用の太陽光発電施設が 2020年より稼働中。発電能力は200 kWh で当社の無窓恒温工場の空調をまかなえる発電能力を有します。2023年度の電力の再生エネルギー比率は15.7%(昨年比△0.9%)でした。

リアルタイムモニターにより発電電力の自家消費状況が見える化し、従業員の環境意識向上につなげています。

■ 活動 7

・当社のSDGs
の取組み



QR コードはこちら

(解説文)

当社ホームページに SDGs17の目標と169のターゲットから当社の活動の関連性を記載しております。

持続可能な社会の実現に貢献するため、これらに積極的に取り組んでいきます。

<https://www.kabu-hokuryo.com/news/sdgs%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%8F%96%E3%82%8A%E7%B5%84%E3%81%BF/>

■ 活動 8

・「美化ピカ隊」
による
近隣道路の
清掃



(解説文)

毎年度末(9/30)に全社員で「美化ピカ隊」を組織し、会社前の県道沿い歩道や近隣市道の清掃活動を行っております。例年実施しているボランティア活動で、地域の環境保全に少しでも貢献できればと考えております。

■ 活動 9

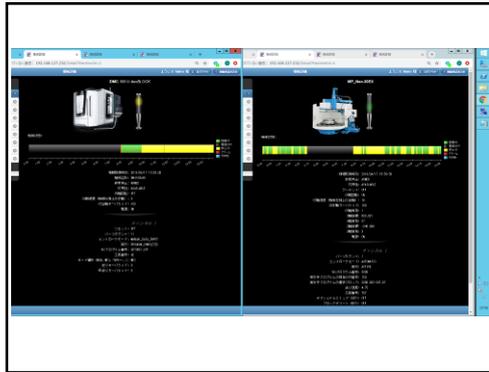
・タブレット入力による
ペーパーレス化とIoT活用、
DX 連携



タブレット実績収集 SYS イメージ



「進捗見える化」モニター



「設備稼働見える化」モニター



勤怠業務管理クラウドイメージ



(解説文)

製造部門ではタブレット端末により作業情報を収集する「タブレット実績収集システム」によるペーパーレス化を 11 年前から取り組んでいます。各エリアにも作業の進捗状況が分かる「進捗見える化」モニター、IoT 連携により設備の稼働状態が分かる「設備稼働見える化」モニターを配置し、エリア管理者がリアルタイムに状況把握することで遅れ工程・トラブル工程のテコ入れを速やかに行い「ムリ・ムラ・ムダ」の削減と生産性向上につなげています。

また近年、デジタル化を更に加速し WEB 上で社内組織間の意思疎通や決裁を図る「グループウェア」をはじめ、業務ファイルの共有・バックアップをリモートワークや出張先でも行える「クラウドファイルサーバー」、従業員がスマホで勤怠状況や有休情報が確認できる「勤怠給与業務管理クラウド」など DX(デジタルトランスフォーメーション)推進による業務の効率化を進めており、今後の GX(グリーントランスフォーメーション)活動につながる足掛かりとしていきたいと考えております。

本年のトピックス

1. JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業の普及・実証・ビジネス化事業が進行中



2023 年 JICA 普及事業での技術指導



該当する SDGs 活動

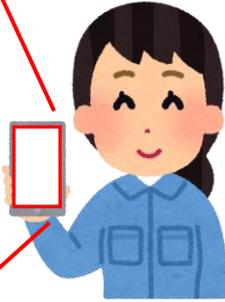
(解説文)

昨年再開された本事業は、弊社が海外展開と途上国の開発促進を目指し2020年に採択されたマレーシアにおける JICA(国際協力機構)「中小企業・SDGs・ビジネス化事業」の普及・実証・ビジネス事業であり、同国における当社ブランドの下水道ロボット「スーパーミニモグ穿孔機」による下水道管路の維持管理事業の需要可能性が高いことについて JICA に認められた事業です。

具体的には、現地で下水道管の修繕が必要な実際の現場工事を受注し当社の下水道ロボットを持ち込み、パイロットプロジェクトとして管内での清掃・修繕工事を実施。日本式の下水道管路の予防保全管理をマレーシアの国営下水道管理組織や関連企業に紹介し、その有効性を実証。ビジネス化につなげることを目指します。

この事業の進行により、SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」のターゲット6. aにある「開発途上国における国際協力と能力構築を支援する」として、「2030年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水利用、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する」ことに直接的に繋がりを持つ活動となります。

2. 勤怠給与システムのクラウド化、その他業務の電子化推進



勤怠給与管理業務クラウド化

電子マニフェスト登録画面



(解説文)

給与明細、有休申請などの勤怠給与業務をクラウド化し、スマホ閲覧・申請システムに更新。また、産廃管理を電子マニフェスト化。これらペーパーレス化・IoT 化により自然環境保全や紙での処理・手続き時間を本来の業務に充当。また、欠勤や遅刻、有休取得データの活用で従業員の健康影響度や過重労働を把握、業務分配など就労環境の改善につなげます。

3. 老朽化スポットクーラーの廃棄



専用機器でのフロンガス回収

老朽化したスポットクーラー



(解説文)

これまで老朽化や故障するなどして保管していた作業現場用スポットクーラー21 台を『フロン排出抑制法』に準拠した方法で廃棄を行いました。CO₂ に比べ温暖化係数が 100 ~10,000 倍以上のフロンガスを 1 台ずつ専門業者によって確実に回収を実施しました。

V. 環境保全活動の取組結果の評価

1. 環境経営目標の達成状況の評価

(2023年11月実施)

2022年10月～2023年9月における目標の達成状況は下記のとおりである。
 なお、目標値は2022年度の数値を基準とした。

環境負荷項目	指標	2022年	2023年 目標	2023年 実績	2023年 結果(目標差)	評価	
CO2 排出量 総計	総量(kg-CO2)	720,027	-	778,232	-	-	
	割合	100%	-	108.1%	-		
	kg-CO2 ／生産高 百万円	総量	295.2	292.2	312.2	20.0	△
		割合	100%	基準比 99%	105.8%	6.86%	
電力の CO2 排出量	総量(kg-CO2)	611,884	-	680,177	-	-	
	割合	100%	-	111.2%	-		
	kg-CO2 ／生産高 百万円	総量	250.8	248.3	272.9	24.6	△
		割合	100%	基準比 99%	108.8%	9.9%	
灯油・ LPGの CO2 排出量	総量(kg-CO2)	43,746	-	44,790	-	-	
	割合	100%	-	102.4%	-		
	kg-CO2 ／生産高 百万円	総量	17.9	17.8	18.0	0.2	△
		割合	100%	基準比 99%	100.2%	1.2%	
燃料の CO2 排出量	総量(kg-CO2)	64,398	-	53,265	-	-	
	割合	100%	-	82.7%	-		
	kg-CO2 ／生産高 百万円	総量	26.4	26.1	21.4	-4.76	○
		割合	100%	基準比 99%	81.0%	-18.2%	
水使用量	総量(m ³)	3,116	-	4,496	-	-	
	割合	100%	-	144.3%	-		
	m ³ /人	総量	28.9	28.5	42.8	14.3	×
		割合	100%	基準比 99%	148.4%	+49.9%	

環境負荷項目	指標	2022年	2023年 目標	2023年 実績	2023年 結果(目標差)	評価	
化学物質 排出量 (PRTR法 対象1t以上)	総量(t)	16.09	-	15.35	-	-	
	割合	100%	-	95.4%	-		
	kg/生産 高百万円	総量	6.60	6.60	6.16	-0.44	○
		割合	100%	基準比100%	93.4%	-6.2%	
廃棄物排 出量	総量(t)	85.8	-	73.0	-	-	
	割合	100%	-	85.1%	-		
	kg-CO2 /生産高 百万円	総量	35.2	35.2	29.3	-5.9	○
		割合	100%	基準比100%	83.3%	-16.7%	

2. 各項目評価コメント(評価と是正処置)

【今年度の傾向】

新型コロナが5類に移行し人の往来が戻った今期は、建機製造売上げ、下水道関連機器の引合いも堅調で過去9年間で最も生産高が高く、原単位では「化学物質」、「廃棄物」排出量減で目標を達成した。



【CO2 排出量について】 評価 △

当時の恒温無窓工場の灯油空調はすべて電気式に更新されており、「灯油消費量」は基準年比ほぼ同等程度。動力燃料は商談の重要度で遠方出張を抑制し8割消費となった。

また、電気料金高騰でコスト効果を期待する太陽光発電設備は25万 kWh/年を発電、約796万円分の電力を算出した。今後も CO2 排出の抑制効果を見定めながら全社の環境意識向上につなげていく。

昨年に引き続き、量産ラインの「工程監査」を継続中。顧客におけるクレームは昨年と同じ6件で横ばいとなった。来季もムダ取り改善による業務効率化や課題となっている応援

作業の変更点管理、外注先の品質監視強化などの相乗効果で目標達成を図りたい。

【水使用量について】評価 ×

2020年社員食堂の完成で水使用量が完成前の5割多いことから、現単位での基準は2022年度の99%に目標を改めた。

しかし、構内水道管に冬季から水漏れが発生、使用量が基準の1.4倍に達した。今後は老朽化した水道管に異常が起きても速やかに対処できるよう、月々の検針結果を過去データと照らし監視しつつ、従業員には節水を啓蒙し水使用量の減少に取り組みたい。

【化学物質排出量について】評価 ○

総量では建機部品が増産傾向であった昨年より6%少なく目標達成となった。ただし、昨年末に顧客B社生産委託工場の火災による月100台前後の塗装アイテムの追加で、年間使用量が昨年より16~17%増えたPRTR関連物質もある。また、建機部品の塗装品質要求の高まりにより塗膜厚さ管理の厳密化、塗装設備の清掃における有機溶剤使用で使用量は近年増加傾向にある。

今後も塗装の更なる高品質化が予想されるが、塗装作業の標準化を進め膜厚管理の徹底、手直し手戻りのムダなどを省いていく。

【産業廃棄物排出量について】評価 ○

全社の焼却ゴミ総量は昨年より1.5割減。また、生産活動のムダ取り改善などで産廃量の低下も見られ、原単位が基準比16%の減少で目標達成となった。

生産高により焼却ゴミの量が増加する傾向もあるため、従業員に対して持ち込みゴミの削減やコピー用紙の裏面活用や再利用、グループウェアやクラウド連携でのペーパーレス化やシステムDX化を進め更に排出削減を目指していく。

3. 実施状況の評価

各部門の環境経営計画の取組みについて環境推進者によるチェックシートを用いた内部監査を実施し、弊社の環境中期目標及び各部門の取組みの整合性と評価も確認できた。今後も目標達成のためのアクションができる体制を継続・活動推進し、環境改善に繋がっていきたい。

また、社内情報網のグループウェア以外にも、業務ファイルの保存先もクラウドに移行しており、これらを相互活用し少しずつDX化を進めている。急な感染症による自宅待機中でもネットに繋がる環境であれば、業務を止めずに情報処理の速やかな展開がこれまで以上に図れるため業務効率化が期待できる。

再生エネルギーである太陽光発電電力の自家消費による環境負荷低減効果、毎月の電力使用量の見える化、当社事業における環境性能の改善につながる取組みとSDGs17の項目及び169のターゲットが繋がっていることもホームページや環境経営レポートなどを通してアピールしていく。

4. 代表者による全体の評価

世界的な環境問題はますます深刻化しており、異常気象、自然災害等 影響が拡大してきている。当社としては、引き続き事業活動を通じ、SDGs協調、カーボンニュートラルへの貢献に努める。

各システム運用による 生産性向上、ペーパーレス、ムリ・ムラ・ムダ削減、品質向上を図り、環境負荷低減に努める。また、先進設備への更新や一貫生産受注による CO2 排出削減にも貢献していく。

世の中の変化、取り巻く環境動向を先読みし、KFS(重要成功要因)、KGI(重要目標達成指標)、KPI(重要業績評価指標)を各部門毎に定め、具体的な数値目標と達成のためのアクションプランを計画し、当社の中期経営計画「LeaP3.5」と「人事評価制度」の運用で成果向上につなげる。

2023年11月14日

代表取締役社長 谷口 直樹

VI. 環境関連法規への遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 当社に適用となる環境法規制など

2023年11月7日確認

	法的要求事項等の名称	適用施設業務等	法的要求事項の内容及び基準 ※備考、本年の実施	'23年適合状況
規 制	水質汚濁防止法	貯油施設 油水分離槽 塗装工程 整備・車検場 自動洗車機	事故により貯油施設より油類を流出させた場合(洪水なども含む) ・速やかな回収 ・知事への届け出 ※'23年度 洪水被害なし	適合 流出なし
	大気汚染防止法	環境対応トラック等使用 車検時のNox測定	自動車Nox・PM法	適合
	フロン排出抑制法	業務用エアコン(第一種特定製品)、[ルームエアコンは対象外]	圧縮機7.5kW未満のエアコンは、3ヶ月に1度簡易点検	適合
	消防法	油脂庫('13/12増設) 火災報知機の点検 避難訓練	少量危険物貯蔵所の届出 毎年実施 ※'22/11/25 避難訓練実施	適合
	小松市消防条例	油・シンナー等屋内保管場所	保管量の規制 ・第一石油類 64L以内 ・第二石油類 416L以内	適合

	法的要求 事項等の名称	適用施設 業務等	法的要求事項の内容及び基準 ※備考、本年の実施	'23年 適合状況
規 制	廃棄物処理法	産廃 廃プラ・廃木材 リサイクル品(鉄くず、 ショット粉、超硬チップ) 廃金属・廃油	産業廃棄物保管基準の遵守 産業廃棄物の収集、処理委託基準の遵守 産業廃棄物管理票による管理 (発行/返却確認/報告/5年間保管) リサイクル品の適正処理	適合
	PCB 特別処理措 置法	PCB 含有トランス保 管、処分管理	県への届出、特定業者にて処分 ※'20/10月処分完了	適合
	PRTR 法	塗料、有機溶剤(キル、ト ルエンなど)	年1トン以上の場合、保管量・移動量・ 排出量を集計、届出 ※6月県へ届出済み	適合
	労働安全衛生法 ・溶接ヒューム特化則 ・粉塵障害予防則 ・有機溶剤障害 予防則	溶接工場 塗装工場	溶接ヒューム特化則対応保護具切替え 塗装工程防毒マスク着用 有機溶剤作業主任者設置 排気調査、有機溶剤調査、特定健康診 断、SDSの掲示	適合
同 意 事 項	農業組合への申し 合わせ	工場横の農業用水	有毒物・有機物(油等)を流さない。 ※7月末組合が用水周りの除草	適合
	小松市環境部会 申し合わせ	近隣の市道や河川	定期的清掃活動への参画 ※9/30 県道・市道清掃実施	実施

2.環境法規制などの遵守

当社に適用となる環境法規制などについて、年1回、推進事務局担当者が遵守状況を確認しています。

環境関連法規などへの違反はありません。

違反、訴訟などの指摘は過去4年間ありません。